

鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会

# 湖鳥会会報

第10号 平成19年2月 鳥取大学 工学部 電気電子工学科 同窓会 「湖鳥会」



平成18年10月14日開催「第1回保護者の集い」(鳥取大学工学部大学院棟6F)

## 〈目次〉

- 学科長あいさつ
- 会長あいさつ
- 教職員からのご挨拶
- 同窓会だより
- 2006年度事業報告・2007年度事業計画
- 2005年度決算報告・2006年度予算案
- 湖鳥会役員一覧
- 電子メールアドレス

鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会  
「湖鳥会」事務局連絡先

〒680-8552 鳥取市湖山町南4丁目101番地

鳥取大学 工学部電気電子工学科 気付  
電気電子工学科同窓会「湖鳥会」

TEL: 0857-31-5247 FAX: 0857-31-0880

E-mail: kishida@ele.tottori-u.ac.jp, mohki@ele.tottori-u.ac.jp

ホームページ <http://kocyoukai.ele.tottori-u.ac.jp/>

## ◇学科長あいさつ◇



電気電子工学科長 伊藤 良生

本年度学科長の伊藤でございます。湖鳥会会員の皆様におかれましては、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、皆様もご存じの通り、国立大学が独立法人化されて3年が経過しました。この間、鳥取大学を取り巻く状況も大きく変わりつつあります。また少子化の傾向がより一層進み、大学学部の入学年齢である18歳人口が激減しつつあり、既に、中・小規模の私立大学では、閉校に追い込まれているところも出てきております。このような中で、国立大学も決して安泰ではなく、地方都市に拠点を有する大学では、定員割れしているところが出てきております。鳥取大学もその例外ではなく、今後ますます厳しい経営環境下に置かれていくものと思われまふ。このような厳しい状況を打開し、より充実した教育および研究成果を生み出すために、電気電子工学科では、教育システムの改革に積極的に取り組み、その成果が結実し、平成16年にはJABEE（日本技術者教育認定機構）が実施する教育プログラムの審査に合格し、「JABEE 認定学科」となりました。

これらの取り組みは、主として、学科教職員と在籍学生が中心として行ったものでありますが、さらに高いレベルの教育および研究成果を生み出すためには、卒業生、学生の保護者および学科が三位一体となることが、今後は必要不可欠になると思われまふ。

このために、本年度から電気電子工学科では2つの新しい試みを始めました。その一つとして、「第1回保護者の集い」を10月14日（土）に湖山キャンパスで開催しました。これは、学科の全学部生の保護者を対象とし、電気電子工学科の教育研究に対する取り組み、学生の就職や大学院への進学状況を理解していただくと同時に、保護者の皆様から学科への意見、要望を直接伺うことを目的としたものであります。他の一つとして、既に参加された方もおられると思いますが、東京近辺に在住の卒業生を対象として、「鳥取大学電気電子工学科41年間の歩みと未来～旧友と母校の再会 in Tokyo 2006～」を本学の東京リエゾンオフィスがあるキャンパス・イノベーションセンター内で開催しました。これは、卒業生の皆様に、電気電子工学科の現在の様子や教育研究に関する取り組みを説明すると同時に、卒業生の皆様から学科への要望を伺うことを目的としたものです。以上二つの行事は、来年度以降も継続して実施する予定であり、後者の同窓会は、来年度は大阪市内で開催する準備を進めております。大阪近辺に在住の卒業生の皆様は是非とも参加していただきますようお願いいたします。

また、工学部としても組織改革に取り組んでいる最中で、平成20年度より、大学院工学研究科がこれまでの8専攻から4専攻に改組されることになりました。電気電子工学専攻は知能情報工学専攻と合体し、情報エレクトロニクス専攻となる予定です。なお、学部は、従来通り8学科構成で運営されます。

最後になりましたが、今後さらに電気電子工学科を発展させるために教職員一丸となり取り組んで参りますので、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## ◇会長あいさつ◇



湖鳥会会長 鷺見 育亮

湖鳥会（鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会）の皆様にはご健勝にて、ご活躍の事と拝察いたしております。鳥取大学工学部は、今年創立から41年を迎えました。電気工学科と、その後作られた電子

工学科と一緒に電気電子工学科の同窓会として、湖鳥会は平成元年に設立され、おかげさまで今年15周年を迎えます。まずはこの場をお借りして、皆様に心から御礼申し上げます。本同窓会が皆様のご理解・ご支援によって、現在においても多くの同窓生を迎えることができるのは、特筆すべきことだと思っております。

昨年（平成18年）には、同窓会にとって大きなイベントが二つ開催されました。一つは、第一期入学生となる電気工学科と機械工学科の合同同窓会（昭和40年度工学部入学同窓会）であり、他の一つが、東京にて電気電子工学科の関東支部同窓会を開催したことであります。40年度入学生による同窓会は、鳥取大学湖山キャンパスの大学院棟で在校生に向けて先輩としての記念講演会を行い、近くのレーク大樹荘2泊となる、関係された教官を招いての懇親会を開催しました。そのなかで、このような会を三年後にはまた開催したいとの声が多く寄せられました。同窓会としてもその準備援助を行っていく予定であります。

これまで湖鳥会は「卒業生の皆さんの思い出をお預かりする場所を創ること」であるという一念を持って、事務局共々励んで参りました。これから表彰台で活躍する後人のために、皆と語れる場を用意しておくことは大きな使命であり、また、皆様の今後の人生をさらに謳歌することのできる場として本同窓会はあるべきと思っております。

ご存じのように、日本企業躍進の3本柱は、「年功序列、終身雇用、企業別組合」であり、これが日本企業の基本スタイルであったわけであり、これが日本躍進の「3種の神器」と言われておりましたが、その貢献者であるのわれわれの退職が始まり、それにつづく同塊の世代の大量退職がいよいよ今春より始まります。

昨年の同窓会イベントを通じて同窓会の役割が少し変わってきているような気がしております。これまでは、OBは後輩のため何かできることを検討もして参りましたが、今やそのことだけでなく会社を卒業して第二の人生を迎えたOBのためにも必要な存在となってきたように感じております。我々の親のように退職後でも、心は引退することなく、現役として実りある第二の人生を過ごして行けるような同窓会であって欲しいと思っております。これからも、本同窓会が皆様にとっての思い出の場・憩いの場・役に立つ場であるよう運営していきたいと考えております。今後とも、よりよい同窓会の実現のため皆様方のご理解、ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

### ○電気電子工学科 在學生（平成19年1月1日現在）

工学部 電気電子工学科・在籍学生数 306名

大学院 工学研究科電気電子工学専攻博士前期課程・在籍学生数 62名

同情報生産工学専攻後期課程電子情報システム講座・在籍学生数 11名（電気電子関係）

### ○電気電子工学科 卒業生（平成18年4月1日現在）

昭和44年3月から平成15年3月までの学部卒業生 2683名

旧電気工学科卒業生 966名（1回生：昭和40年4月入学～24回生：昭和63年4月入学）

旧電子工学科卒業生 809名（1回生：昭和43年4月入学～21回生：昭和63年4月入学）

電気電子工学科卒業生 1050名（1回生：平成元年4月入学～12回生：平成13年4月入学）

昭和46年3月から平成15年3月までの大学院修士（博士前期）課程修了者 587名

旧電気工学専攻修了生 128名（1回生：昭和44年4月入学～24回生：平成4年4月入学）

旧電子工学専攻修了生 167名（1回生：昭和47年4月入学～21回生：平成4年4月入学）

電気電子工学専攻修了生 352名（1回生：平成5年4月入学～10回生：平成15年4月入学）

平成9年3月から平成14年3月までの大学院博士後期課程修了者

情報生産工学専攻（電子情報システム講座）修了生の内37名

（1回生：平成6年4月入学～9回生：平成13年4月入学）

## ◇教職員からのご挨拶◇

### 夢のような『41年』



電子素子応用光学・教授

副井 裕

平成19年3月に『41年』間お世話になった鳥取大学を定年退職することになった。19『41年』生まれだし、工学部創設2年目の昭和『41年』に電気工学科助手として赴任したことを考えると、『41年』に縁のある大学生活であった。赴任当時電気工学科には大島準一郎教授しかおらず、昭和41年入学、昭和41年入学の学生が岩倉校舎（現在の鳥取三洋電機本社工場）で学んでいた。工学部の全学生数も200名程度と少なく、学科が異なっても顔と名前が一致する程度の規模であった。現在は8学科体制で約2,600名の学生、130名の教員、50名の事務・技術職員で、目を見張る成長ぶりである。

昭和41年から「電気基礎学」講座助手を7年あまりして、「通信工学」講座に移り、講師・助教授を務めた。その後昭和56年に「電気応用学」講座に移籍したので、旧電気工学科4講座のうち3講座を渡り歩いたことになる。平成元年に電気工学科と電子工学科は合併して「電気電子工学科」となり、「情報通信」研究室を担当したが、平成16年からは「電子素子応用」研究室に移り、現在に至っている。自分の在職中に、5つも研究室を移るとは思いもしなかった。研究は一貫してアナログ及びデジタル信号処理を行ってきたが、学生や研究仲間と多くの国内・国外の学会に出席・発表したことが思い出される。

昭和59年1月アフリカのケニアからJICA（現国際協力機構）研修員2名を受け入れ、1年間研修を実施したことがきっかけとなり、ケニアの『ジョモ・ケニヤッタ農工大学』の運営を軌道に乗せる日本政府のプロジェクトに、16年間係わることになった。この間、20名以上の研修員・留学生を研究室に受け入れ、自分自身が12回もケニアに運営指導等で出かけることになった。知り合った現地の人たちとの交流や献身的な国際協力活動をする日本人との出会いは、私の人生観を変えるほどの経験であった。

人生思わぬことがおこるものである。私が地域共同研究センター長や工学部長を務めるとは、自

分自身でも予想できないことであった。この『41年』間に親しくして頂き、またお世話になった方々、諸先生、事務職員の皆様、卒業生のみなさん、現役の学生諸君、本当にありがとうございます。みなさんのますますのご活躍と電気電子工学科の一層の発展をお祈りします。

### 新任のご挨拶



電子素子応用工学・助教授

中西 功

湖鳥会の皆様、はじめまして。2006年6月より地域学部地域環境学科から電気電子工学科に配置換えとなりました中西功と申します。よろしくお願ひします。出身は大阪です。大阪府立大学電気工学科を修了し、大阪の電機メーカーに勤めていましたが、平成4年に当時の教育学部に採用され、鳥取に着任しました。鳥取は高校の臨海学校の時に浦富海岸に来たぐらいで、それまで縁がない土地でしたが、数えてみると来てからもう14年が経っていました。

メーカーではコンピュータのハードウェア設計を担当していました。RISCプロセッサを用いたラップトップワークステーションの開発が最後の仕事でした。鳥大着任後は、信号処理関連の研究を行っています。適応信号処理や音声雑音除去、最近は生体情報（バイオメトリクス）を用いた本人認証の研究も行っています。副井裕先生、伊藤良生先生との共同研究です。お二人は府大研究室の先輩にあたります。現在所属している電子素子応用研究室では藤村喜久郎先生が医療診断システムの研究を行っていますので、生体情報を用いたシステムの研究が研究室の大きなテーマになりそうです。

同窓会といえば、私は毎年正月と盆に大阪で開く大学同期の集まりに参加しています。オフィシャルなものではなく、6～8人の集まりです。最初は独身者ばかりだったのがいつしか奥さん同伴が増え、さらに子どもが生まれるとまた一人での参加に変わっています。また、昔は安い居酒屋でわいわい騒ぐのが多かったですが、最近は少し高級な料理屋でゆっくり話すのが主になってきています。あまり仕事の話はしません。もっぱらタイガースの活躍が酒の肴です。そういえば大学を修了して今年で丁度20年です。そろそろ同窓会を開いて、日頃会えない連中と話してみたくになりました。同窓会は良いですね。



情報通信工学・助手  
笹岡直人

主催：鳥取大学工学部電気電子工学科  
共催：鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会「湖鳥会」、鳥取大学工学部、鳥取大学産官学連携推進機構

湖鳥会の皆様、はじめまして。

私は、2006年4月より鳥取大学工学部電気電子工学科の助手として着任いたしました。

出生地は福岡県北九州市、育ちは鳥取市です。

鳥取県立鳥取東高校を卒業後、1998年に鳥取大学工学部電気電子工学科に入学し、同大学院を修了しました。第10回の電気電子工学科卒業生です。

学生時代は、副井裕教授、伊藤良生教授のもと、デジタル信号処理である適応信号処理、音声信号処理、無線通信に関する研究に取り組んで参りました。現在も、携帯電話や補聴器などでの応用が考えられる音声に重畳した周囲環境騒音の抑圧、また、無線LANシステムに関する研究を行っております。

4月から演習や実験、学部1年生のチューターとして、未熟ではありますが学生の指導を行っております。学生には電気電子工学に関する基礎的なことを習得するとともに、学生生活が充実したものになるような指導を心掛けたいと思います。

ところで、今年度、博士前期課程を修了し就職していた友人が博士後期課程に入学しました。また、研究のために電気電子工学科にきている友人もいます。学内で友人が一生懸命に仕事に取り組んでいるのを見ると、私も頑張らなければと励まされます。電気電子工学科を通しての繋がりを卒業された方々に感じていただける場が同窓会ではないかと思えます。湖鳥会の益々の発展を願うとともに、私もお手伝いできればと思っております。

最後になりましたが研究・教育活動に少しでも貢献できるよう一生懸命勤めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

## ◇同窓会だより◇

### 関東地区で同窓会開催！

「旧友と母校の再会 in Tokyo 2006～鳥取大学電気電子工学科、41年間の歩みと未来～」

日時：平成18年11月18日（土）14:00-18:30（講演会・懇親会）

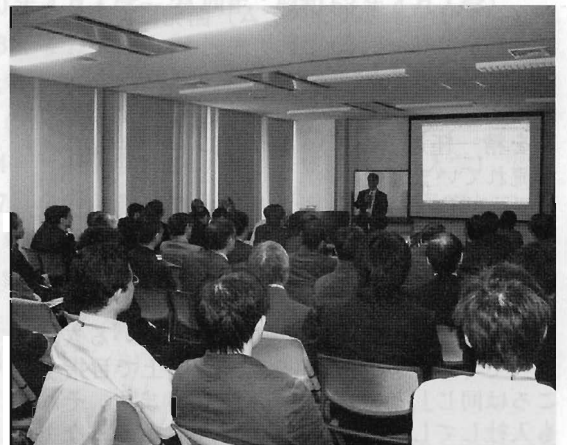
場所：キャンパスイノベーションセンター（JR田町駅前）

このたび、長年の構想でありました都市部での同窓会開催が実現しました。休日の昼間でありましたにもかかわらず、75名もの同窓生に足を運んでいただきました。講演会後の懇親会にも72名の方々にご参加いただき、昔話やご近況など、話に花を咲かせていただきました。またそれ以外にも、都合により参加できない旨をお知らせいただいた方も何名かいらっしゃいました。ご参加いただきました同窓生の皆様方ならびに、残念ながら今回はご都合により参加できなかった方々に、心より御礼申し上げます。有難うございました。

会は以下のような次第で、講演会と懇親会の形式で行いました。◆副井工学部長挨拶、◆伊藤学科長挨拶、◆電気電子工学科同窓会「湖鳥会」副会長挨拶（東芝グループ「風紋会」会長 川端哲男氏）、◆工学部ならびに電気電子工学科（旧電気工学科および旧電子工学科）の歩み（岸田教授）◆現在の電気電子工学科（伊藤教授）◆研究紹介（小西教授、安東教授、中西助教授）。司会は私、大木が勤めさせていただきました。

今回の東京地区での会を開催するに当たりましては、東芝グループ同窓会「風紋会」および日本無線関連の同窓生の皆様からの、多大なご助力を賜りました。電気電子工学科および湖鳥会事務幹事一同に代わりまして、心より御礼申し上げます。有難うございました。

また初めて開催した都市部での同窓会ということで、色々とはならない点もあったかと思いますが、来年は、大阪におきまして第2回同窓会を開催予定でございますので、関西近辺の同窓生の皆様にはご参加頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。（助教授 大木）



## 「鳥取大学電気電子工学科 41 年間の歩みと未来～旧友と母校の再会 in Tokyo 2006～」に参加して



湖島会副会長・  
東芝グループ風紋会会長  
45年電気工学科卒

川端 哲 男

40年記念式には参加の機会を逸し、関東地区で最初の催しに、ご挨拶をさせて頂いた。我々2期生は、入学後の昭和41年7月に新湖山キャンパスに移り、学舎、道路等の不整備の中、先生と生徒と一緒に、仲良く、ソフトボールと勉学に勤しんでいた事が、40年を経ても記憶に新しい。先生方の研究テーマ発表では、企業研究に近い事に感激し、大学の法人化に伴い、先生方が教育のみならず、経営に頭を絞る必要性をお聞きして、驚き、時代の潮流も感じた。懇親会では、最初は同期、企業毎同窓等の多数の小さな輪であったが、次第に年齢差を越えた大きな輪となり、就学中の話題、現業の技術討議等、懐かしさと、自慢話に華が咲き、大盛会であった。今後も、大学とOBとの情報交換を継続して開催して、産学共同開発テーマ、工学部のCOE (Center of Excellent) 等の発掘が出来る様な講演・懇親会になっていく事を期待したい。

## 「鳥取大学電気電子工学科 41 年間の歩みと未来」に寄せて

NEC 第一 OMCS 事業部

大野 修 司

1990年3月に電気工学専攻(修士課程)を修了し、同年、NECに入社して以来、大規模システムのSE(システム・エンジニア)として金融、通信、官庁マーケットでのOMCSオープンミッションクリティカルシステム)開発に従事してきました。

卒業して、それほどたった気はしていなかったのですが、SEとして忙しいながら、充実した毎日を精一杯過ごしているうちに、17年もの歳月が流れていました。

学生時代は、ありとあらゆるタイプの人たちと、一緒に過ごすことができ、色々と刺激を受けたものです。しかし、会社に入ると、各人の性格は違って、もともとが「こういう業種で働きたい」、「こういった技術や勉強が必要」と考えている人が集まってくるため、「仕事をして行く上で目指すところは同じ」ということになってきます。それでも入社してしばらくは、体験することがみなキラ

キラして見えますので、チャレンジ精神で何事にも取り組みます。しかし、だんだんと技量や知識もついて、社内での人脈も出来てくると、色々な新しい世界に飛び込む事に、躊躇するような事も多くなってきます。そういう意味では、違うタイプの人、自分の知らない世界と知り合う機会として、「鳥取大学電気電子工学科 41 年間の歩みと未来～」は有意義でした。

大学の法人化に伴う、組織体制や、教育・研究への取り組みの変わりようには、少なからず驚き、先生方の改革への気概に感嘆し、同時に、このような大学から卒業される学生の皆さんの将来にも期待を持ちました。また、卒業生である諸先輩方や後輩諸氏のご活躍状況に触れ、自らも、新たな発展・チャレンジに向かう元気を頂きました。

かなり大袈裟ですが、一人の人間としての自分を確立させる手助けにもなる機会を得たと感じています。

最後になりましたが、鳥取大学電気電子工学科の卒業生・関係者の皆様が、今後ともますます、発展、飛躍されますようお祈り致します。

## 「鳥取大学電気電子工学科 41 年の歩みと未来」に出席して



昭和60年度卒業 電気工学専攻

山本 尚 宏

先日、東京田町のキャンパス・イノベーション・センターにて鳥取大学電気電子主催・同窓会に参加しました。今回は東京地区での卒業年度・電気電子学科を越えての初めての開催だと思います。

講演会では現在の鳥大の研究室紹介や写真を交えた大学キャンパスの紹介があり、私は卒業して約20年立ちますが工学部の増築や湖山地区の変容振りに月日を感じました。

懇親会では同期生との同窓会(卒業後10年ほど頻繁開催していましたが最近のごぶさたです)とは違い年度を越えた若い人から、工学部設立当時の方まで参加されており会社を通したつきあいはひと味違う交流ができたと思います。又、在学時にお世話になった副井先生にお会いできたこと、当時学生であった大木先生(今回の幹事さん)にお会いできたことなど、楽しい時間を過ごすことができました。

今後も大学と卒業生の結びつきを深めていく為に数年に1度は(毎年は大変ですので)開催されることを期待しております。

## ◇ 事業報告 ◇

2006年5月19日  
湖鳥会幹事 大木 誠

鳥取大学工学部電気電子工学科  
同窓会「湖鳥会」理事会  
事業報告および事業計画

日時：2006年5月19日（金）18：00～

場所：湖山クラブ

参加者：10名

### ● 2006年度 事業報告

#### 1. 2006年度理事会の開催

2006年度5月19日（金）18：00～19：00

鳥取大学湖山クラブにて理事会を開催した。

#### 2. 2006年度卒業・修了生の入会手続き及び会費5000円を徴収した。

#### 3. 名簿データ管理・修正作業

卒業生からの連絡に基づき、名簿データの管理、修正を行った。この作業にはパート職員を雇用し、作業の効率化を図った。

#### 4. 2006年度会報の発行

2006年12月に湖鳥会会報(8ページ)を発行し、会員に配布した。

#### 5. 工学部同窓会との連携

工学部同窓会幹事会 田中堅太郎(学外幹事)及び大木(学内幹事)が参加し、工学部同窓会の運営を行った。また岸田幹事が工学部役員選任委員として参加した。

#### 6. 湖鳥会ホームページの更新

電気電子工学科 立木技術職員の協力のもと、湖鳥会ホームページの更新作業を行った。

### ● 2007年度 事業計画

#### 1. 2007年度理事会の開催

#### 2. 入会手続き・会費徴収作業

2007年度卒業生の入会手続き及び会費5000円の徴収作業を行う。

#### 3. 名簿データ管理・修正作業

卒業生からの連絡に基づき、名簿データの管理・修正を行う。

#### 4. 会報の発行

12月頃を目途に会報を発行する。またあわせて会費を募る。

#### 5. 会費の請求

名簿の発行に際して、2000円×3年＝6000円(名簿発行時に請求)を請求する。

#### 6. その他

工学部同窓会幹事として、安東理事に交代する。(2年任期)(学外幹事は変更なし)2008年には工学部同窓会の会長候補を電気電子工学科同窓会から選出しなければならない。(2年任期)2006年7月に工学部第1回入学生同窓会(電気工学科・機械工学科)を開催する。

## ◇ 2005年度決算報告◇

## ◇ 2006年度予算案◇

収入の部(単位：円)

項目	2005年度 予算	2005年度 決算	2006年度 予算
同窓会・ 設立基金	0	0	0
入会金	370,000	270,000	270,000
会費	0	0	0
その他	0	9	0
前年度繰 越金	194,080	564,080	332,587
合計	564,080	834,080	602,587

支出の部(単位：円)

項目	2005年度 予算	2005年度 決算	2006年度 予算
設立総会 準備費用	0	0	0
会報発行	400,000	362,437	0
名簿発行	0	0	0
名簿管理 アルバイト	0	25,000	0
総会補助	0	0	0
支部結成 準備費用	0	0	0
事務費	300,000	104,000	150,000
会議費	0	0	20,000
通信費	0	8,115	0
慶弔関連	0	0	0
その他	15,000	1,950	60,000
繰越金	0	332,587	0
合計	715,000	834,089	230,000

## ◇特別会計◇

収入の部 (単位:円)

項目	2004 年度決算
通帳解約など	2,303,871
合計	2,303,871

支出の部 (単位:円)

項目	2004 年度決算
振り替え手数料	0
合計	0

## ◇ 湖烏会役員一覧 ◇

会長 (1名)

鸕見育亮 (第1回電気・鳥取環境大)

副会長 (若干名)

川端哲夫 (第2回電気・東芝)

安木秀明 (第3回電気・鳥取三洋)

豆田順一 (第1回電子・日立製作所)

監事 (2名)

松岡良明 (第1回電気・鳥取三洋)

井上健太郎 (第2回電子・鳥取三洋)

幹事 (若干名)

加納尚之 (第17回電気・米子高専)

岸田 悟 (第4回電子・鳥取大学)

北川雅彦 (第3回電子・鳥取大学)

田中堅太郎 (第7回電子・鳥取三洋)

藤村喜久郎 (第14回電子・鳥取大学)

西浦順一 (第15回電子・日本セラミック)

有岡正登 (第17回電子・日本セラミック)

大木 誠 (第18回電気・鳥取大学)

安東孝止 (第3回電気・鳥取大学)

理事 (若干名)

藤井滯士 (第1回電気・近畿電気工事)

松本昭夫 (第2回電気・三菱電機)

奥田和基 (第4回電気・西部電気建設)

山下政美 (第4回電気・リコーマイクロ)

石田義則 (第5回電気・日立製作所)

畑 博道 (第5回電気・自営業)

川上孝志 (第6回電気・鳥取三洋)

深田哲司 (第6回電気・松下電器)

安宅善策 (第7回電気・日立製作所)

原田光夫 (第7回電気・鳥取三洋)

森山秀樹 (第8回電気・東芝)

清水 恵 (第9回電気・三菱電機)

宮脇一彦 (第9回電気・鳥取三洋)

大賀昌二 (第10回電気・日立製作所)

河野仁志 (第10回電気・東海旅客鉄道)

春日貴幸夫 (第11回電気・鳥取情報処理学校)

表 則夫 (第13回電気・鳥取三洋)

岸田達治 (第14回電気・鳥取三洋)

竹内克徳 (第14回電気・鳥取三洋)

草野浩幸 (第15回電気・鳥取県工業試験場)

吉田清春 (第15回電気・鳥取三洋)

田淵一十志 (第16回電気・鳥取三洋)

米村幸雄 (第16回電気・リコー鳥取技術開発)

里 友成 (第17回電気・鳥取三洋)

山方秀則 (第17回電気・鳥取三洋)

立花慶治 (第18回電気・大学生協)

山根一博 (第18回電気・鳥取三洋)

原 雅人 (第19回電気・鳥取空港)

村上 博 (第1回電子・ニッポ電機)

楠 啓一 (第2回電子・三菱電機)

寺谷茂樹 (第3回電子・鳥取三洋)

重村 豊 (第4回電子・三田工業)

栗本保夫 (第5回電子・福田設備設計事務所)

山根幹仁 (第6回電子・鳥取三洋)

岡 照浩 (第8回電子・日立通信システム)

岡本公夫 (第8回電子・竹田電子工業)

河原宏之 (第8回電子・日本電装)

北川勝則 (第8回電子・松下電器)

桑田孝明 (第8回電子・日本電気)

岡垣光則 (第9回電子・鳥取三洋)

原川藤夫 (第10回電子・持田製薬)

三木公保 (第11回電子・三井造船)

椎木正敏 (第12回電子・日立製作所)

出口浩司 (第13回電子・リコー)

西村 晋 (第13回電子・鳥取三洋)

堀 和人 (第13回電子・三田工業)

尾前充弘 (第14回電子・鳥取三洋)

福島 淳 (第14回電子・日本電気)

大塩祥三 (第15回電子・松下電器産業)

小林靖弘 (第15回電子・三洋電機)

水口洋一 (第15回電子・日本電装)

塩 豊 (第16回電子・リコーマイクロ)

井上 修 (第17回電子・リコーマイクロ)

古川公彦 (第17回電子・三洋電機)

村上 誠 (第18回電子・鳥取三洋)

◇2007年度には同窓会理事の改選を行います。

## 電子メールアドレス

会長及び学内幹事の電子メールアドレスを以下にのせておきます。

湖烏会へのご意見やこの欄での記事等がありましたらご連絡お願い致します。

氏名	電子メールアドレス
大木 誠	mohki@ele.tottori-u.ac.jp
岸田 悟	kishida@ele.tottori-u.ac.jp
ホームページ	http://kocyoukai.ele.tottori-u.ac.jp